

A 日 程

〈出典一覧〉

国語	谷川嘉浩	『人生のレールを外れる衝動のみつげかた』一部改変	筑摩書房
国語	益田宗・久保田淳 校注	『保元物語 平治物語 承久記』（新日本古典文学大系 43）一部改変	岩波書店
国語	脇明子	『読む力が未来をひらく——小学生への読書支援』	岩波書店

問 9

本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 45 ～ 49

- 45 本が映像より優れている点の一つは、混乱したといったん読むのをやめて考えたり、前にもどって情報を確認したりできることである
- 46 物語のなかの出来事が自分の印象的な記憶に似たものであれば、想像力が働きたして読書がおもしろくなってくる
- 47 生活や仕事に必要な情報を得たり、人間関係や先々に起こることを予測したりするために必要不可欠でないなら、思考力・想像力・記憶力を鍛える意味がない
- 48 さまざまな感覚や心情にも及ぶ高度な想像力を鍛えていれば、ごまかしやずさんな計画にある矛盾に必ず気づくことができる
- 49 ふつうの読書の目的は知識や楽しみを得ること、思考力・想像力・記憶力を鍛えるのはプラス・アルファの効果であるが、そこに本を読んでほしい理由がある

問 4

③ 新しい本を読み始めるのは、読書に慣れていてもかなり億劫なものがあるが、読書に慣れていてもなぜ億劫なのか、その理由として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 40

- ア 読書経験の豊富な人ほど、思考力を使った情報整理が読書の負担であることがわかっているから
イ 想像力を働かせて読むことに慣れた人であっても、読みはじめの想像力が働かない間は情報整理がたいへんだから
ウ 読書経験に関わりなく、初めて読む本の内容を記憶していくには一定の記憶力が必要になるから
エ 情報整理が進まない冒頭のうちは想像力が働かないものだが、読書に慣れていく人ほど想像力を働かせようと必死になるから
オ 読みはじめは想像力による情報整理がなかなか進まないため、その本に慣れるまでは、読むペースが上がらないから

- 25 -

問 5

空欄 A・B・C にはいる語の組み合わせとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 41

- ア すると——そうすれば——けれども
イ とにかく——要は——たとえば
ウ 一方——それとも——さらに
エ でも——また——もちろん
オ つまり——やがて——なぜなら

- 26 -

問 6

④ ありがたいのは、そんなふうに読むことが苦にならない段階にさしかかっても、情報整理をする思考力、それと自分自身の記憶のようなものへと変換する想像力は、ちゃんと仕事を続けている。とあるが、その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 42

- ア 想像力を働かせながら読むということが簡単にできるようになっても、思考力や想像力がそれまでの話を記憶するという仕事を続けることで、記憶力も鍛えられているということ
イ 読むことが楽しくなると、情報整理や記憶に対する負担感がなくなるが、それらの作業自体は意識せずとも続けられているため、思考力や想像力は鍛えられ続けているということ
ウ 読むための情報整理が負担なくできるようになっても、それまでの話を記憶するための想像力は変わらず働き続けなければならない、話が長くなるほど仕事は増えるということ
エ 読書というものに慣れて楽に読めるようになったとしても、思考力や想像力は、それまでの話を記憶するための記憶力に姿を変えて継続しているということ
オ 想像力が働く段階になると、滞りなく読めてありがたく感じられるが、情報を整理したり、物語の内容を自分のことのように記憶する負担は、実は変わっていないということ

- 27 -

問 7

⑤ ネット上の文字情報の読み方は、もっぱら「流し読み」「拾い読み」だ。とあるが、それと比較して本を読む場合についてはどうか、その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 43

- ア 求める知識や楽しみを得るために、必ず思考力や想像力を働かせなければならない点がネットとは異なる
イ ネットとはちがいで、求める知識や楽しみがしっかり得られる上に、プラスアルファを受け取ることができる
ウ 文字情報を読むという点ではネットと変わらないが、思考力や想像力を働かせて読むという経験は本を読む場合だけに得られる
エ ネットは知識の欠落部分を埋めるためのもので「流し読み」や「拾い読み」になりがちだが、本はそのような頭の働かせ方では読むことができない
オ 知識を得るただけに「流し読み」や「拾い読み」をすることもあるが、その場合はネットの読み方と変わらない

- 28 -

問 8

⑥ 「流し読み」や「拾い読み」ではない読み方。とあるが、それはどのような読み方か、本文中の語句を用いて「読み方」につながる形で、二十五字以内で記しなさい。解答番号は 44

象的な体験というのは、記憶しようとして努力しなくても覚えていられるものですが、物語のなかの出来事も、想像力が働きたければ自分自身の体験の記憶に似たものになり、それを土台にすれば、新たに加わってくる情報がずつと整理やすくなるからです。そこまですべて着くのは、慣れないといへんですが、幸い本の場合は、映像のように勝手に展開していくわけではありませんから、混乱したら立ち止まって考えたり、前にもどって確認したりすればいいのです。そのするうちに、想像力が働きはじり、読むのがおもしろくなってくるれば、思考力を使う情報整理も不思議なくらい楽になって、どんどん読み進めていけるようになります。

シンプルな物語の場合、読者は物語の舞台となる場所を把握し、人物たちの動きを思い浮かべ、会話の言葉や心のなかの言葉を聞くだけで、描写が厚みのあるものになっていくにつれて、言葉以外の物音が聞こえ、味や匂いが感じられ、触感や空気感までが味わえるようになっていきます。いわば、「その世界に吹く風を感じる」といった感覚です。

B

主人公や語り手の複雑な心情が、まるで自分自身の思いのように心にしかかってくることもあります。

ありがたいのは、そんなふうに読むことが苦にならない段階にさしかかっても、情報整理をする思考力、それを自分自身の記憶のようなものへと変換する想像力は、ちゃんと仕事を続けていくということです。先へ先へと読み進めるにつれて、記憶すべき「それまでのお話」はどんどん長くなりますが、それを覚えていられるのですから、記憶力も鍛えられているわけです。

そうやって鍛えられた記憶力や思考力、想像力は、生きていく上でおいに役に立ちます。生活や仕事に必要な情報を得るのにも、人とかわっていくのにも、この先起こることを予測するのにも、これらの力は必要不可欠です。特に重要なのが想像力で、それも、シンプルなレベルではなく、さまざまな感覚や心情にも及ぶ高度な想像力を鍛えておけば、こまかしやずさんな計画などにおかしいぞと気づく力にもなります。なぜなら、想像力は矛盾があるとつまづくからで、想像力がわづまずいたら、そこには矛盾がひそんでいる可能性があるといえるからです。その点映像は、有無を言わずに現実感を持っているので、矛盾や不自然さを含んでいても、そのまま受け入れてしまいがちなのが、非常に大きな問題です。目の前に存在している映像の矛盾や不自然さに気づくためには、しっかりと鍛え上げられた思考力や想像力が必要で、それにも本を読むことが役に立つということになります。

映像とはちがって、ネットの場合は、検索にある程度思考力を使いますし、文字情報を読むことが多いので、ずつといいように思えますが、問題は、ネット上の文字情報の読み方は、もっぱら「流し読み」「拾い読み」だということです。「流し読み」「拾い読み」で事足りるのは、私たちがネット検索をするときは、「このことを知りたい」ということがおおよそわかっていて、いわば、知識の欠落部分を埋める断片を求めているにすぎないからです。コミュニケーション・ツールとしてネットを使う場合でも、決まり文句のやりとりが大半を占め、「端から丹念に読む」という作業は、ふつう必要とされません。それに對し、ある程度長さがあって、挿絵だけではない本を読んでいくと思ったら、ひとつひとつの言葉を丹念にたどって情報を整理し、それをもとに想像力を働かせなくてはなりません。そういう読み方で、「流し読み」「拾い読み」とでは、頭のなかで起ることがまるでちがうのです。

C

私たちににとって、本を読むことの目的は、知識を得ることだったり、楽しむことだったりするのがふつうです。しかしその本が、「流し読み」や「拾い読み」ではつまらない本、ちゃんと言葉を読まなければならぬ思考力や想像力を働かせれば、求める知識の楽しさがしっかりと得られる本であれば、私たちは、求めたものを得るのと同時に、記憶力や思考力や想像力が鍛えられるというプラス・アルファ、生きる力の基本としてとても大切なプラス・アルファを、知らず知らずのうちに受け取ることができるのです。だからこそ子どもたちには、ぜひとも本を読んでほしいのですし、それも、「流し読み」や「拾い読み」ではない読み方で読んでほしいのです。

実みなながらプラス・アルファの効果を得るのに最適なものは、一人の主人公が経験していくこととていねいにたどった物語の本です。物語は娯楽にすぎず、それよりも知識の本のほうが勉強になっていい、という意見もあると思いますが、先に述べたプラス・アルファの力を育てるのには、物語のほうが適しています。なぜなら、知識の本は、多くの場合、「流し読み」や「拾い読み」をし、興味のあるところだけについていねいに読む、という読み方で事足りるものだからです。物語の本はそれとはちがって、何が何やらわからないところからスタートし、とりあえず拾い集めた雑多な情報を思考力を使って整理し、想像力でそれを記憶しやすしい形

にしないと、読み続けられるものではありません。想像力が働きはじめても、途中を止したらわからなくなりますし、新しく加わった情報がそれまでに想像していたことと整合せず、前にもどって情報整理をやり直さなくてはならないこともあります。「字は読めるのに本が読めない」という人は、そういう作業が苦だということですが、その作業によつて育つ思考力や想像力は、本を読むことに役立つだけでなく、日常の問題を解決しようとするときや、まわりの人々とコミュニケーションをとろうとするときなど、ありとあらゆる場面で必要となります。

(臨明子「読む力が未来をひろく」——小学生への読書支援)

問1

a・bの読みをひらがなで記しなさい。解答番号は a 36 b 37

36 a 把握 37 b 丹念

問2

① アニメやゲームなどは、主に映像のつらなりですから、想像力は不要ですし、映像は勝手に展開していつてくれますから、思考力を駆使しなくても、ただ見ておいておおよそのことはわかり、とあるが、文字で書かれた本に對し、映像の特性はどのような点にあるか、端的に述べている部分を本文中から十七字で抜き出し、記しなさい。解答番号は 38

問3

② 子どもの本にはたいいてい想像の核になるような挿絵がついています。とあるが、「想像の核になるような挿絵」とはどのようなものか、その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 39

- ア 映像が静止している状態と同様であり、文字情報を理解しなくても子どもが物語を楽しむようにするもの
イ 映像ほど見て分かり易くはないが、文字情報だけでは伝わらない点を補完し、子どもの情報整理能力の不足を補うもの
ウ 子どもは思考に具体性を与えて助け、それを梃子にして想像力を働かせることを促すもの
エ 子どもが、まだ十分に鍛えられていない力で想像を膨らませなくても、物語のイメージを提供するもの
オ 子どもは想像力を喚起する起爆剤として作用し、映像の代わりとなる機能を果たすもの

問 6

⑥ その数上りたんなれば の意味として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 27

- ア その数が増えているようなら
イ その仲間が逆上したからには
ウ その数がある程度に達したところ
エ 大勢上落しようだから
オ 大勢参内したのであれば

問 7

⑦ 左右なく寄せては、よも討たれじ を現代語訳しなさい。解答番号は 28

問 8

⑧ あくまで取らせけり の意味として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 29

- ア むやみに与えた
イ 思う存分与えた
ウ 最後までお与えになった
エ 充分にお取りになった
オ 徹底して取らせたことよ

問 9

広綱は光季に対し、自宅に招いた理由を明かすかどうか苦慮する。その理由として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 30

- ア 院の考えがわからないので、いい加減な情報を伝えられないと思ったから
イ 広綱は光季に頼りにされたいと思ったが、そうなるかはわからなかったから
ウ 諸国の武士の動向が把握できず、今、動くことは危険だと判断したから
エ 光季に密告したことが院に知られて、自身が院から処分されると考えたから
オ 白拍子との遊びに興じる光季の様子から、武士としての姿勢に幻滅したから

問 10

本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 31 ～ 35

- 31 光季が広綱に語って聞かせた夢の一部が現実のものとなった
32 危険が迫った光季は、自邸に招いた遊女達を安全に逃すよう手配した
33 光季は、張られた弓を自分が十分に扱えないことを情けなく思っていた
34 広綱は光季に、都が騒然となっているが、それはよくある一時的な世情の動きだと説明した
35 光高は事態を収束させるため、院に弓矢の逸品を献上するよう、光季に進言した

第三問 【選択問題 現代文】

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

〔これまでの内容〕

子どもになぜ本を読まねばならないのかと聞かれた際、「いろんなことが学べるから」という答えは、インターネットのような便利なツールの登場によりほとんど通用しなくなった。「本は楽しいよ」という呼びかけも、テレビアニメやゲームが子どもたちを取りまく今はむなしい。「文字が覚えられるよ」といつても、本を読もうとしない子どもたちでも、ふだんの生活に必要な範囲の文字は読みこなしているのがふつうだろう。

では、「本を読む」ということをしないと得られないものは、いったい何なのでしょう。それはまず、思考力と想像力の働きです。①アニメやゲームなどは、主に映像のつらなりですから、想像力は不要ですし、映像は勝手に展開していつてくれますから、思考力を駆使しなくても、ただ見ているだけでおおよそのことはわかり、ひととおり楽しむには不自由しません。それに対して、主に文字で書かれた本は、文字を読んでそれに含まれている情報を拾い集め、思考力を使って情報を整理し、それに基づいて想像力を働かせるところまで進まない、楽しむことはできません。②子どもの本にはたいがい想像の核になるような挿絵がついていますが、それを立体化させ、動かし、生命を吹きこみ、描かれていない場面へも押し広げていくのは、読み手の想像力の働きなのです。

新しい本を読むはじめるのは、読書に慣れていてもかなり億劫な③ものですが、それは、想像力が情報を消化しはじめるまでは、維多な情報がどんどん増えていき、整理に追われるばかりだからです。④A、情報整理がある程度進み、「どんな場所か」「どんな人物か」などということが多少ともつかめてくれば、読んだことを記憶するのは、はるかに楽になります。自分自身の印

十五日の朝になりければ、能登守秀康は、院宣にて、伊賀判官を三度までそ召したりけれ。光季は心にさとり、怪しと思ひて、左右なくも参らず、乳母子の治部次郎光高を呼びて、「御所へ召すに合はせて、都の中騒がしと聞こゆ。諸国の武士もその数上りたなれば、内裏・仙洞へ参りて、外ながら事の有様見てこよ」とて遣はしければ、治部次郎は高陽院殿に馳せ参りけるに、三条東洞院にて討手の使、千余騎にぞ行きさひたる。治部次郎はこれを見て、「あれは何事の武者ぞ」と問ひければ、京軍部の申しけるは、あれこそ、伊賀判官討ちに寄する宣旨よ」と言ひければ、治部次郎これ聞き、夢の心地して、大きに騒ぎ走り帰りにて、判官を出居の妻戸の口へ呼び出し、「君ははや勤勤を蒙り給ひにけり。討手の御使とて院よりすでに千余騎の武者はや間近く参りたり。たとひ宣旨・院宣なりとも、よき矢一つあそばせ」とぞ申したる。

判官はこれ聞けども少しも騒がず、光高に言ひけるは、「光季等討たんと申し召さんに、左右なく寄せては、よも討たれじ。御使は給はらんずらんその間に、遊者ども出ださんに、誰かは留むべき」とて後見の政所の太郎呼び出だし、「遊者どもに、纏頭取らせよ」とぞ言はれける。政所の太郎は内に立ち入り、様々の物ども取り出し、あくまで取らせけり。

〔「承久記」〕

注

- *さ……………藤原秀康が仲間の三浦胤義と行った、光季を討つ相談を指す。
- *伊賀判官光季……………北条義時の縁者。
- *あひやけ……………舅・同土。光季の子息寿王光朝の妻が広綱の娘。
- *追座になりて……………くつろいだ座になつて。
- *弓矢取る身はく明日は身の上……………武士は勝敗によって命が左右される身の上。

- *中媒……………なかだち。
- *乳母子……………貴人の子を養育する任にあたる人の子ども。
- *高陽院殿……………後鳥羽院の院御所。
- *遊者ども……………白拍子等の遊女達。
- *纏頭……………歌舞・演芸をした者に与える装束の品物。

問1 判官^①の読みとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は22

- ア ほうかん イ ほうがん ウ ぼうかん エ ばんかん オ ばんがん

問2 知らせばや^②とあるが、何を「知らせばや」なのか、その具体的な内容として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は23

- ア 義時に危険が迫っていること
- イ 武士は、人の上に立つ分別が必要なこと
- ウ 光季は、院の勤勤を蒙ったこと
- エ 秀康の振舞が理解しがたいこと
- オ 今日酒宴を二人の思い出にしたいこと

問3 ③に同じ意味・用法のものとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は24

- ア 端のかたに出てゐてながむるを、「入りね入りね」と言ふ
- イ いやんことなきにはあらねど、いやしからぬ家の子ども
- ウ いかになりぬるにかと思ひ続けるに、寝もねられず
- エ 人知れず昔のこと忘れねば、とり返してもあはれなり
- オ 参内し給ふ臣下をもそねみ給へば

問4 白拍子^④に関わりの深い、今様をまとめた流行歌謡集を、次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は25

- ア 関吟集 イ 和漢朗詠集 ウ 古来風体抄 エ 十訓抄 オ 梁塵秘抄

問5 夜もすがら^⑤の対義語として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は26

- ア ひねもす イ あけぼの ウ 夜半 エ つとめて オ 一旦

(二) 次の問いに答えなさい。

問 1 次の傍線部に相当する漢字を含むものを、それぞれア～エの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **17** **18**

17 ジャツカン目減りしている

ア ジャクネン層を対象にする

イ 法律でジャクシャを守る

ウ 朗報に欣喜ジャクヤクする

エ セイジャクな空間

18 日本の歴史をカエリみる

ア 新たに人材をコウする

イ コタンの味わいのある絵

ウ コキヤク情報の管理

エ 結果にコシツする

問 2 次の空欄 **X** にはいるものを、ア～エの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **19**

19 先輩の **X** を借りて取り組む

ア 背 イ 肩 ウ 舌 エ 胸

問 3 次の文の空欄 **Y** にはいるものを、ア～エの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **20**

20 「**Y** が狂う」とは、物事や人物についてのよしあしの判断を誤ることである

ア 手元 イ 眼鏡 ウ 算段 エ 歩測

問 4 次の慣用句と対照的な意味のものを、ア～エの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **21**

21 あとは野となれ山となれ

ア 火のないところに煙は立たぬ

イ 案するより産むがやすし

ウ 立つ鳥跡を濁さず

エ のど元過ぎれば熱さを忘れる

第二問 【選択問題 古文】

次の文章は、『承久記』の一節である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。なお、*印の付いた語句については、注を参照しなさい。

「これまでのあらすじ」

北条義時を倒そうとする後鳥羽院の命を受け、能登守藤原秀康は、京都の守護役である、北条方の伊賀判官光季を五月十五日に討つことを決める。その前日、後鳥羽院方の山城守佐々木広綱は光季を自宅に招く。

*さ申す程に、十四日もなりにける。山城守広綱^①伊賀判官^②光季とは、あひやけなりければ、山城守この由聞き付けて、伊賀判官に知らせばと思ひ、呼び寄せて酒盛して、打ち解けて遊び申しけるは、「判官殿、今日は心静かに遊び給へ」とて、追座になりてわりなき美女召し出だし、酌を取られて、それを肴^③にて、今一度とぞ勧めける。光季心行きて打ち解ければ、申す様、「この程、都に武士あまたありと承る。何事ゆゑと心得がたし。過ぎし夜の夢に、宣旨の御使三人来たりて、光季張りて立てたる弓を取りて、柄を七に切ると見て候へば、万心細くあぢきなく候ふなり。今日の交遊は思ひ出しそつかうまつらめ」とぞ言ひける。山城守これを聞き、弓矢取る身は、今日は人の上、明日は身の上と言ふ事のあるものを、知らせばやとは思へども、光季が打たれなん次の日は、御所に聞こし召し、「広綱こそ中儀^④したりけれ。奇怪なり」とて、頭を召されん事一定なり。さりながら、余所の様にて知らせばやと思ひ、光季に申しけるは、「院は何事を思し召すやらん。都中に騒ぐ事どもありと承る。この世の中の習ひなれば、人の上にや候ふらん、身の上にや候ふらん。も事もあらん時は頼み申すべし。また頼ませ給へ」とぞ言ひける。さる程に日も暮れ方になりければ、光季は館所に帰りて、その夜やがて白拍子春日金王を呼びて、夜もすがら、宴遊をぞ催しける。

問 4 次の慣用句と対照的な意味のものを、ア～エの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **21**

21 あとは野となれ山となれ

ア 火のないところに煙は立たぬ

イ 案するより産むがやすし

ウ 立つ鳥跡を濁さず

エ のど元過ぎれば熱さを忘れる

第二問 【選択問題 古文】

次の文章は、『承久記』の一節である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。なお、*印の付いた語句については、注を参照しなさい。

「これまでのあらすじ」

北条義時を倒そうとする後鳥羽院の命を受け、能登守藤原秀康は、京都の守護役である、北条方の伊賀判官光季を五月十五日に討つことを決める。その前日、後鳥羽院方の山城守佐々木広綱は光季を自宅に招く。

*さ申す程に、十四日もなりにける。山城守広綱^①伊賀判官^②光季とは、あひやけなりければ、山城守この由聞き付けて、伊賀判官に知らせばと思ひ、呼び寄せて酒盛して、打ち解けて遊び申しけるは、「判官殿、今日は心静かに遊び給へ」とて、追座になりてわりなき美女召し出だし、酌を取られて、それを肴^③にて、今一度とぞ勧めける。光季心行きて打ち解ければ、申す様、「この程、都に武士あまたありと承る。何事ゆゑと心得がたし。過ぎし夜の夢に、宣旨の御使三人来たりて、光季張りて立てたる弓を取りて、柄を七に切ると見て候へば、万心細くあぢきなく候ふなり。今日の交遊は思ひ出しそつかうまつらめ」とぞ言ひける。山城守これを聞き、弓矢取る身は、今日は人の上、明日は身の上と言ふ事のあるものを、知らせばやとは思へども、光季が打たれなん次の日は、御所に聞こし召し、「広綱こそ中儀^④したりけれ。奇怪なり」とて、頭を召されん事一定なり。さりながら、余所の様にて知らせばやと思ひ、光季に申しけるは、「院は何事を思し召すやらん。都中に騒ぐ事どもありと承る。この世の中の習ひなれば、人の上にや候ふらん、身の上にや候ふらん。も事もあらん時は頼み申すべし。また頼ませ給へ」とぞ言ひける。さる程に日も暮れ方になりければ、光季は館所に帰りて、その夜やがて白拍子春日金王を呼びて、夜もすがら、宴遊をぞ催しける。

問2 これは「人間」や「コミュニケーション」だけでなく、娯楽や運動などの「刺激」に置き換えても成立しますとあるが、その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。 解答番号は② ア 人間やコミュニケーションのジャンルだけでなく、娯楽や運動のジャンルでも、注意の分散が起きているということ イ 娯楽や運動などの刺激も、人間やコミュニケーションと同様に、寂しさを一時的に忘れさせてくれる効果があるということ ウ 現代人は、人や会話といった交換不能なものを、娯楽や運動などの刺激にほとんど置き換えてしまっているということ エ 人間関係だけでなく、娯楽や運動といった刺激に対しても、現代人は同様の寂しさを感じているということ オ 人間関係が、いつの間にか娯楽などの刺激に置き換わっていることに、現代人は気づいていないということ 問3 空欄 A から D にはいる語として、もっとも適切なものをそれぞれ次の中から選び、その記号をマークしなさい。ただし、一つの記号は一度しか使わないこととする。 解答番号は A—3 B—4 C—5 D—6 ア つまり イ かえって ウ なぜなら エ たといえば オ もちろん	問4 お互いを単純な類型に押し込むような関係性 とあるが、それとは対照的な人間関係の構築の仕方述べている箇所を「姿勢」につながる形で二十五字で抜き出し、はじめとおわりの五字を記しなさい。 解答番号は⑦ 問5 こうした解像度の低い抽象性で留まる とあるが、これはどのような状態になることを指している表現であるか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。 解答番号は⑧ ア 利他的に他人や刺激を求めるような態度が、自身の感覚を麻痺させてしまう状態 イ 相手が誰であっても気にしないような姿勢が、周囲に見透かされてしまう状態 ウ 薄い知覚に基づく欲望の中で、個人的な偏りに触れることができなくなる状態 エ なんとなく退屈で不安な気分をこまかしていくことで、注意力が失われる状態 オ 寂しさしかもたらさないデジタル端末により、徐々に孤独に追いやられる状態 問6 ルール、ルット とあるが、本文ではどのような意味で使われているか、その説明として、適切ではないものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。 解答番号は⑨ ア 関係性の依存をもたらすのがルールであり、関係性を継続させるのがルットである イ 現代の社会において、ルールは外れるのが難しく、ルットは現出し難くなっている
---	--

問7 「衝動」が導く生き方 とあるが、その内容を本文中の語句を用いて、二十五字以内で説明しなさい。 解答番号は⑩ ウ レールでは交換可能な他者を求め、ルットでは個性に基づく生き方を求めることになる エ 寂しさが導いていくのがルールであり、衝動が導いていくのがルットである オ レールでは強さの軸で欲望が機能し、ルットでは偏愛のような深い欲望が働いている 問8 マルチタスキングによって何がもたらされると筆者は考えているか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。 解答番号は⑪ ア モチベーションの低下 イ 集中力の欠如 ウ 個性の希薄化 エ 寂しさの抽象化 オ 自己の分裂	問9 本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。 解答番号は⑫～⑯ ⑫ いつでも誰とでもつながることのできる状況においてもたらされる「快楽的なダルさ」は、自己と正対することの煩わしさを一時的に解消する ⑬ スマホ時代における退屈、寂しさ、不安な気分の根本的な対処が難しいのは、刺激やおしゃべりという手段自体が誤っているためである ⑭ 個々が具体的なものを受け取れなくなっているため、交換可能な存在同士が接続するような関係性が生まれる ⑮ 「誰でもいい誰か」「何でもいい何か」を求めるのは、現代人が他人と向き合うことを本質的には恐れ、避けようとしているためである ⑯ 現代人は、寂しさをこまかす方法である、自分の「屈曲」や「欠如」とも言うべき要素に向き合うことが不得意になっている
--	---

第一問 【共通問題 現代文】

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いつでもどこでも誰かや何かとつながることができるデジタル端末（例えばスマートフォン）を複数持つことが当たり前になった状態で、私たちが日夜取り組んでいるのが「マルチタスキング」です。これは、複数の行動やコミュニケーションを並行して行うことを指します。例えばこんな感じ。

「Driver で友人と音声通話しながら P S ゲームをプレイするが、自分は早々に負けて退場する。テレビは消音でつけっぱなしにしている。通話で友人を応援しながら、手に持ったスマホで SNS に保存した気になる店のことをチェックし直し、LINE で別の友人に店の情報を送る。そこに話しかけてくる家族に、「ちょっと待って、今ゲームしてるから」と声をかけつつ、戦闘の終わった友人に通話で「ナイスファイト、割といい練習だったよな」とねぎらい、次のバトルへ向けて操作しながら、別の友達が投稿した写真に「いいね」を押す。」

マルチタスキングの常態化は、何事にも没頭せず注意を分散させるための練習を日夜積み重ねるようなものです。何のためにそんな練習を積んでいるかというと、マルチタスキングがもたらす注意の分散状態が、「快楽的なタクルさ」となっており、自分の「寂しさ」や、そこからくる不安や退屈を一時的に忘れさせてくれるからです。

ここでの「寂しさ」は、他人に聞かれながら他人と接することができず、他人を依存的に求めているような状態を指します。いつでもどこでも誰とでもつながることのできる端末を持つているため、現代は、常に寂しさを感じる条件が揃っている時代なのです。^①これは「人間」や「コミュニケーション」だけでなく、娯楽や運動などの「刺激」に置き換えても成立します。私たちは常に誰かや何かにアクセスできる力を持っており、そのことが **A** 私たちを寂しくしています。

しかし、寂しさをこまかししたり、寂しさでつながったりしても、当の寂しさは解消されません。それによって、寂しさはむしろ増大すると考えた方がいいでしょう。 **B** 寂しさに駆られてつながるとき、私たちは「誰でもいい誰か」何でもいい何か」を求めているからです。いわば、抽象的なものを求めているため、別のもっと入れ替わっても大差ないものを欲望していることとなります。だから、具体的なものを享受することができず、求めているものとつながるときにも充足や喜びがありません。

「クリスマスまでに恋人がほしい」とか、「今日遊びに行ける人、誰かいないかな」という言葉を知ることがあります。ここで求めている他人は、交換可能な存在です。 **C** 一定の条件があるでしょうが、それさえクリアしていれば、基本的に誰でもいい。「誰か電話しろ」の「誰か」が実在せず、任意の人物を代入できるパラメーター（変数）でしかないのと同じです。誰でもいいでも代入できるものを求める欲望には、実際に目の前にいる人の個性や雰囲気へと注意を向ける感性が欠けています。

なんとなく退屈で寂しくて不安だという気分にあるとき、その感覚をこまかすために、「何か」の刺激や「誰か」とのおしゃべりで気分を覆い隠すことはできます。しかし、それでは根本的な対処になりません。マルチタスキングで日夜注意を分散する訓練を積んできた私たちは、刺激やおしゃべりを、本質的には何でもよい／誰でもよいものだという程度の薄い仕方でした。知覚していません。

ここで注意すべきなのは、誰でもいい／何でもいいと思ってコミュニケーションや刺激を求めているとき、求めている対象（誰かや何か）が交換可能なだけでなく、求めている自分の側も交換可能な存在になっていることです。交換可能な同士が接続したところで、その関係性は持続しません。仮に持続したとしても、妙に依存的で、お互いを単純な類型に押し込むような関係性になるのがせいぜいなのだと思います。

分散した注意で通し、薄い知覚を向ける習慣ができあがってしまうと、結果として関係や欲望の抽象性が高まります。欲望が互いに入れ替えても成立するほど抽象的で一元的なものになる。 **D** 強さの軸でしか機能しなくなるということです。「モチベーション」や「やる気」、難解な「好き」などは、こうした解像度の低い抽象性で留まる手助けをしてしまう点で危ういので

- 2 -

- 1 -

す。

逆に言えば、スマホ時代において、私たちは深い欲望、すなわち衝動や偏愛のような自己の固有性に根差した力に触れることが不得意になっています。「自己の固有性」と言うとき大げさに聞こえますが、自分の「屈曲」や「欠如」と呼びたくなるような、自分にはどうしようもない個人的な偏りのことだと思ってください。

現代人の抱きかちな「衝動」は、私たちが抽象性や交換可能性へと導いています。（中略）「寂しさ」が導く生き方のルールを外れた先にあるのは、「衝動」が導く生き方です。そして、それは一定の手順を用いて言語化しなければ現出しないという意味で、幽霊のようなルールです。このルールを行けば、誰かとは交換できない個人性に根差した、従って偏った原動力を見つけることができます。

（谷川嘉浩「人生のルールを外れる衝動のみつけた」）

問1

練習 研鑽 訓練 とあるが、これらの語は同様の表現意図で使われている。その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **1**

- ア 正式な言葉遣いをすることで、スマホ時代の問題の深刻さを浮き彫りにしている
- イ 言い回しをあえて難しくすることで、習得が難しい技術であることを表現している
- ウ 同義語の反復が、マルチタスクであることを視覚的にわかりやすくしている
- エ 本来、望ましい能力の習得を意味する表現が、望ましくない行為への皮肉になっている
- オ わずかに意味の違う熟語の使い分けによって、現実の状況の複雑さに対応している

- 4 -

- 3 -